

平成28年度研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

鳥取県の人口は現在約60万人であるが、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の都道府県別将来推計人口」（平成25年3月推計）によると、2040年には44万人に減少するとともに、高齢者人口は26%から36%へと急増することが予測されている。人口減少が進む地方では、今後、地域の生活を誰がどのように支えていくかが大きな課題となる。

このような現状の中で、「高校生として地域に貢献する活動を通じて、将来の地域を支える人材を育成する」ことをテーマとし、地域の教材化と、それをもとにした普通科高校としてのキャリア教育の指導に関する研究開発を行う。

2 研究の概要

(1) 地域特性の教材化

地域特性（産業分野、地学・地理〔山陰海岸ジオパーク〕分野、歴史分野など）を分析して、高校生が取組可能で地域貢献に有効な素材を選んで教材化し、「学校設定科目」として開発するとともに、各類型の専門科目として教育課程への位置づけを研究する。

(2) 地域に直結した実習等の取組

「総合的な学習の時間」において、地域の企業・団体の協力を得ながらインターンシップを行い、地域特性に対する理解を深める。その上で地域の抱える課題を明確にし、地域への貢献につながる取組のあり方について研究を行う。

(3) 本校キャリア教育への組込

(1)で位置つけた「地域特性を教材化した学校設定科目」と各類型の専門科目及び(2)で具体化した「総合的な学習の時間」を活用した地域に直結した取組を現在のキャリア教育に組み込み、3年間を見通したキャリア教育の新しいカリキュラムをつくる。

3 研究の目的と仮説等

(1) 研究仮説

本校が位置する鳥取県岩美郡岩美町は、平成22年に世界ジオパークネットワークへの加盟が認定された「山陰海岸ジオパーク」の西部に位置する。鳥取県では、世界ジオパークネットワークへの加盟認定を好機として、県を挙げて観光立県を目指す取組を進めている。過疎化と高齢化が進む地元の岩美町でも、町を挙げて地域活性化への取組を開始した。

本校はそのような岩美町にある唯一の高校であり、「山陰海岸ジオパーク」を活用して地域振興を目指す町に貢献する人材を育成するために、研究開発課題を設定した。

世界ジオパークの認定にあたっては、地質に関する自然遺産を保護するだけでなく、教育や地域の活性化に生かすことも目的としており、地学・地理以外の分野も含まれる。そのため、キャリア教育の視点でアプローチすれば、より多くの分野において地域との連携が可能となる。

教材化された地域特性の各分野の基本的な部分については、本校の全類型で学校設定科

目を利用して共通に履修し、専門的な部分については、各類型の特色を生かした専門科目の中で履修する。そして全学年で「総合的な学習の時間」を活用した体験学習などを実施してカリキュラムを体系化し、地域と直結したキャリア教育を推進していきたい。

この研究開発によってこれまで本校が取り組んできたキャリア教育が、「地域を学んで地域の過去と現在を理解し、地域での経験を生かしてその将来と自分との関わり方を見据える」という、より地域に根差した新しいキャリア教育へと発展させることが可能になるとともに、地域に根差した教育により地域を支える人材を育成し、過疎化と高齢化が進む地域の振興に学校が貢献できるのではないかと考える。さらに、地域の特性に着目し、その将来像を見据えた上で、過疎地の生活を誰が、どのように支えていくかが大きな課題となる。そのため地域社会と一体となって持続可能な社会の担い手を育成する教育活動をさらに推進していくことが本校のミッションではないかと考える。

以上のように、「山陰海岸ジオパーク」も含めた幅広い分野での地域に根差したキャリア教育及び人間力の向上を目指していきたい。

この新しいキャリア教育の手法が確立されれば、それぞれの地域の特性（財産）を生かした教育が日本中の様々な地域で展開可能になると考えている。

（２）教育課程の特例

平成26年度入学生の理科について「科学と人間生活」の履修を行わず、理科の「基礎を付した科目」1科目の履修での卒業を可能とする。

4 研究内容

（１）教育課程の内容

ア 学校設定科目「ジオパーク3」の目標

- (ア) 自分たちの活動成果を適切にまとめ、目的に応じて構成や展開を工夫してわかりやすく発表する能力を養う。
- (イ) 自分たちの活動成果をもとに発見した、地域の一員としての自己の在り方生き方を表現する能力を養う。
- (ウ) 類型ごとの地域に貢献する活動を後輩に対してPRし、岩美高生として後輩に活動をつなごうとする態度を育てる。

イ 学校設定科目「ジオパーク3」の内容

- (ア) 研究活動・地域貢献活動
- (イ) 活動のまとめと発表準備
- (ウ) 活動の発表
- (エ) 活動の振り返りと成果物作成

ウ 学校設定科目「ジオパーク3」の年間指導実績

記号	時数	項目
(ア)	10	研究活動・地域貢献活動
(イ)	1	浦富海岸一斉清掃
(ウ)	13	活動のまとめと発表準備・練習
(エ)	2	クラス別発表会
(オ)	5	成果発表会

(カ)	1	成果発表会の反省等
(キ)	1	アンケート調査
(ク)	3	活動の振り返り

エ 学校設定科目「ジオパーク3」の指導方法等

(ア) 研究活動・地域貢献活動

平成27年度に実施した学校設定科目「ジオパーク2」において編成したグループごとに、平成28年3月に開催した「中間発表会」での指摘等を踏まえながら、8月末まで活動を展開した。各グループの編成と具体的な活動内容は以下の通りである。

進学類型

いわみ音楽祭と田村虎蔵の世界（生徒4名）

…音楽祭30周年記念誌の編集、音楽祭の企画・運営

※岩美まちづくりの会との連携

道の駅「きなんせ岩美」の活性化（生徒4名）

…道の駅切符の商品化、PRキャラクターの考案、インフォメーション体験

※道の駅「きなんせ岩美」との連携

ジオランニング in IWAMI（生徒5名）

…岩美町内のランニングコースの開発、PRパンフレット・動画の作成・配布

※岩美町観光協会の協力

ジオラマ ～岩美チョーラブ～（生徒6名）

…岩美町のジオラマの作成

※公立鳥取環境大学・鳥取県立博物館での研修

観光・スポーツ類型

未知なる味を探して（生徒6名）

…うまいもん甲子園への出品（岩美の食材を用いた餃子）

ご当地食材開発ラボ（生徒6名）

…うまいもん甲子園への出品（トルティーヤ）

ジオevolution（生徒5名）

…ジオパークに関する新しいスポーツの提案（ジオevolution、ジオロッククライミング）

ジオパーク広め隊！！（生徒6名）

…SNSによる町内の名所や学校の活動の情報発信、岩美町役場での聞き取り調査、神戸大学附属中等教育学校との交流、岩美現代美術展の補助

商品開発部 ～砂丘のパール～（生徒5名）

…らっきょうを用いた商品開発（チップス、ハンバーグ等）

福祉類型

「岩美町 花いっぱい運動」の展開（生徒6名）

…国道9号線沿いの空き地と岩美町観光協会前に花壇を整備

※岩美まちづくりの会との連携

「岩美ジオカルタ大会」の開催（生徒4名）

…「岩美ジオカルタ」の製作、「岩美ジオカルタ大会」の開催

※公立鳥取環境大学の協力

岩美の恵みで“ものづくり”（生徒6名）

…塩・豆腐づくり、写真立て・グラス製作、岩美現代美術展に出展

※「東浜体験グループ」による指導

(イ) 浦富海岸一斉清掃

地域の清掃活動として山陰海岸ジオパークに含まれる浦富海岸の清掃を行った。社会の一員としての意識を高めるとともに地域に貢献することを目的として実施した。

(ウ) 活動のまとめと発表準備・練習

8月31日から11月7日にかけて「研究活動・地域貢献活動」のまとめとして成果発表会にむけての準備・練習を行った。

(エ) クラス別発表会

11月2日にクラス別発表会を実施した。第2学年の生徒が見学する中で成果発表会を見据えながら各グループが発表を行った。

(オ) 成果発表会

11月8日に成果発表会を実施した。各クラスの代表（5グループ）による口頭発表と全てのグループによるポスター発表を行った。

(カ) 成果発表会の反省等

11月9日に成果発表会の反省を行った。成果発表会の記録の完成及び感想文の記入を行った。

(キ) アンケート調査

11月16日に「キャリア教育アンケート」、「学習生活アンケート」、「心理測定尺度（情報活用の実践力尺度）」の調査を実施した。なお、「理科アンケート」については理科の授業で実施した。

(ク) 活動の振り返り

12月7日から1月18日までグループごとに活動の反省、成果物作成、連携先への挨拶、地元中学校の生徒・教員への発表、学校ホームページでの活動の発信等を行った。

オ 学校設定科目「ジオパーク3」の指導方法等は適切であったか

「研究活動・地域貢献活動」においては「地域の教材化」「地域との連携による生徒のキャリア発達の促進」「教科学習で得た知識や技能の活用による類型の特色の発揮」に重点を置いており、これらの重点を踏まえつつグループごとにテーマを設定し、活動を開始した。活動が進展するにしたがって、活動の方向性の転換や修正を求められる場面が多々生じたが、最終的に「地域の教材化」を進めることができた。ただ、一部のグループでは地域との連携の不足や類型の特色を生かしきれていない部分がみられた。それでもグループごとに生徒が協働しながら一つの目標に向かって活動を展開していくことは、生徒のキャリア発達を促す上で有効であったと考えられる。

また、本活動では5名の担当教員の指導に加え、2名の学校魅力化コーディネーター（岩美町の「地域おこし協力隊」として採用され、本校で勤務している職員）や鳥取大学でキャリア教育を専攻している学生の支援も得た。特に学校魅力化コーディネーターは岩美町とのパイプを生かしながら様々な地域の素材を発掘しており、活動の充実に大きく寄与した。今後、本活動のテーマの一部については平成28年度以降の入学生を対象として「総合的な学習の時間」で実施する地域課題解決学習（名称「イワッツ・ミッション」）においても継続し、発展させていく。

(2) 研究の経過

	実施内容等
第1年次	<p>校内研究推進委員会の設置（研究計画の検討・作成、運営）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地域特性の分析 ②地元関係機関の意見を聴取し、有効な地域素材を選択 ③地域特性の教材化 ④地域教材を扱う新学校設定科目と類型毎の専門科目を決定し、カリキュラムを編成 ⑤新学校設定科目の学習評価の評価規準を検討 ⑥キャリア教育プログラムの再構成（キャリアファイルの作成） ⑦「総合的な学習の時間」の活用法や関連行事（職場体験実習等）の計画作成 ⑧第1学年の指導方法の研究
第2年次	<p>第1学年で特例教育課程を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ①校内研究推進委員会の設置開催。学校設定科目「ジオパーク1」の実施内容及び「ジオパーク2」「ジオパーク3」の内容の方向性を検討。 ②「ジオパーク1」担当者による「担当者打合せ会」の開催。単元毎の実施内容、目標、指導計画、学習評価について検討。 ③生徒アンケート及び保護者・地域アンケートの実施と結果分析。「ジオパーク1」での指導目標と生徒に付けさせたい力の明確化。 ④運営指導委員会を設置開催。「ジオパーク1」での実施内容と学習評価について助言及び検討。 ⑤公開授業及び文部科学省現地調査により研究開発内容を検証。課題の再確認、今後の方向性等について検討。 ⑥「ジオパーク1・2・3」全体計画について指導目標、生徒に身に付けさせたい力、年次指導目標、評価の観点と評価規準等の見直しと修正。 ⑦地域連携、地域貢献に取り組む先進校の視察。 ⑧学習評価の方法（生徒アンケート、心理測定尺度、ルーブリック評価等）についての研究。 <p>第1学年での取組を検証、カリキュラムの評価・点検・修正。</p>
第3年次	<p>第2学年で特例教育課程を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ①校内研究推進委員会の開催…学校設定科目「ジオパーク2」の実施内容及び「ジオパーク3」の内容の方向性を検討・確認 ②運営指導委員会の開催…「ジオパーク2」の実施内容と学習評価について助言及び検討 ③「ジオパーク2」担当教員による打合せ会の開催…各単元の実施内容、目標、指導計画、学習評価について検討 ④「ジオパーク2」の実施…インターンシップ事前・事後学習、浦富海岸健康マラソン、「夏のジオパーク この1枚」の発表、浦富海岸一斉清掃、研究活動・地域貢献活動、中間発表会等 ⑤発表会への参加…APGNポスター発表会、村高フォーラム2015、地域創造ハイスクールサミット2015 in 北栄等 ⑥ジオパーク学習の実施…6月と9月に第1学年を対象に実施

	<p>⑦指導方法と学習評価の研究…地域連携の方法、ルーブリック評価、OPP A（一枚ポートフォリオ）等</p> <p>⑧各種アンケートの実施…キャリア教育、学習・生活、心理測定尺度（情報活用の実践力尺度）、理科</p> <p>⑨先進校の視察…和気閑谷（岡山）、倉敷南（岡山）、桐蔭中・高（和歌山）、高根沢（栃木）</p> <p>⑩「ジオパーク3」の成果発表会の計画 第2学年での取組を検証、カリキュラムの評価・点検・修正</p>
第4年次	<p>第3学年で特例教育課程を実施</p> <p>①校内研究推進委員会の開催…学校設定科目「ジオパーク3」の実施内容、研究発表会の実施内容、指定終了後の方向性等を検討・確認</p> <p>②運営指導委員会の開催…「ジオパーク3」の実施内容と学習評価、指定終了後のあり方について助言及び検討</p> <p>③「ジオパーク3」担当教員による打合せ会の開催…各単元の実施内容、目標、指導計画、学習評価について検討</p> <p>④「ジオパーク3」の実施…研究活動・地域貢献活動、浦富海岸一斉清掃、成果発表会、活動のまとめ等</p> <p>⑤発表会等への参加…地域創造ハイスクールサミット2016 in 北栄（地震のため中止）、いわみ地域創生チャレンジフォーラム2016、高校生ジオパークキャンプ（豪雪のため中止）等</p> <p>⑥ジオパーク学習の実施…第1学年を対象に実施</p> <p>⑦イワッツ・ミッションの計画・実施…第2学年及び第1学年を対象とする地域探究学習・地域貢献活動</p> <p>⑧研究発表会の計画・実施</p> <p>⑨指導方法と学習評価の研究</p> <p>⑩各種アンケートの実施…キャリア教育、学習・生活、心理測定尺度（情報活用の実践力尺度）、教員</p> <p>⑪先進校の視察 3年間の特例教育課程の取組を検証、研究開発学校指定4年間の総括カリキュラムの評価・点検・修正、新しいキャリア教育のカリキュラムを策定</p>

(3) 評価に関する取組

	評価方法等
第1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・研究終了時に、研究計画について本校職員アンケート ・地元関係機関へのアンケート ・運営指導委員の評価
第2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設定科目「ジオパーク1」でのキャリア発達の指標として当該学年生徒を対象に「キャリア教育アンケート」を6月と1月に実施。全国の普通科高校を対象として実施された結果との比較および、6月から1月での変容を分析・考察。「学習・生活アンケート」と併せて分析・考察。 ・「研究開発校アンケート」を4月に行い生徒の地元に対する意識調査を実施。 ・当該学年保護者を対象に、本校の「ジオパーク1」によるキャリア教育

	<p>に対する関心や、生徒の能力等についての意識を調査するための「保護者アンケート」を7月と12月に実施。結果について分析・考察。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の事業所を対象に、本校の「ジオパーク1」によるキャリア教育に対する関心や、生徒の能力等についての評価を調査するための「地域アンケート」を6月に実施。結果について分析・考察。 ・生徒のキャリア発達のうち情報活用能力を測るため、心理測定尺度により分析・考察。 ・運営指導委員による「ジオパーク1」の取組の評価。評価結果をうけて研究推進委員会が必要な改善策等の検討を実施。
<p>第3年次</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア教育アンケート」…学校設定科目「ジオパーク2」でのキャリア発達の指標として第2学年の生徒を対象に5月と2月に実施。全国の普通科高校を対象として実施された結果との比較。昨年度からの変容を分析・考察。「学習・生活アンケート」と併せて分析・考察。 ・「心理測定尺度」…生徒のキャリア発達のうち情報活用能力を調査するために第2学年の生徒を対象に2月に実施。昨年度からの変容と併せて分析・考察。 ・「理科アンケート」…本来履修すべき理科の「科学と人間生活」に替えて「ジオパーク」を設定していることから、理科に関する関心・意欲や科学的に探究する能力の育成を「ジオパーク」において図ることができたのかを調査するために2月に実施。結果について分析・考察。 ・「保護者アンケート」…本校の「ジオパーク2」によるキャリア教育に対する関心や生徒の能力等についての意識を調査するために第2学年保護者を対象に12月に実施。昨年度からの変容と併せて分析・考察。 ・「地域関係機関アンケート」…本校の「ジオパーク2」によるキャリア教育に対する関心や生徒の能力等について評価するために地域の企業や事業所（インターンシップの受入先）を対象に6月に実施。結果について分析・考察。 ・運営指導委員による評価 ・授業担当教員による評価
<p>第4年次</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア教育アンケート」…学校設定科目「ジオパーク3」でのキャリア発達の指標として第3学年の生徒を対象に11月に実施。全国の普通科高校を対象として実施された結果との比較。平成26年度からの変容を分析・考察。「学習・生活アンケート」と併せて分析・考察。 ・「心理測定尺度（情報活用の実践力尺度）」…生徒のキャリア発達のうち情報活用能力を調査するために第3学年の生徒を対象に11月に実施。平成26年度からの変容と併せて分析・考察。 ・「保護者アンケート」…本校の「ジオパーク3」によるキャリア教育に対する関心や生徒の能力等についての意識を調査するために第3学年保護者を対象に12月に実施。平成26年度からの変容と併せて分析・考察。 ・「教員アンケート」…本校教員を対象に2月に実施。 ・運営指導委員による評価 ・授業担当教員による評価 ・卒業予定生徒のうち就職希望者の地元への内定状況の調査

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

ア 生徒への効果

(ア) キャリア教育アンケート

このアンケートでは、キャリア教育を通して育成すべき基礎的・汎用的能力を構成する4つの能力に関する質問について回答を数値化し、これを指標とした。また、「高等学校普通科におけるキャリア教育の実践と生徒の変容の相関関係に関する調査研究」(平成26年度文部科学省委託調査)の結果と本校の結果を比較した。この調査から「ジオパーク1・2・3」の様々な活動や進路指導の取組等が生徒のキャリア発達において有効であったことが明らかになった。また、学びに対する意欲に行動が伴わないこと、また自己肯定感を高めた生徒は多いものの全国と比較するとまだ十分ではないということも明らかになった。以下に詳細を示す。

a 人間関係形成・社会形成能力

指標は第1学年後半で大きく落ち込んだが、その後は上昇に転じ、最終的には本校が全国を上回った。第3学年最終調査で肯定的回答のうち「あてはまる」の割合が全国よりも高かった項目は「相手の気持ちを考えて話をする」(本校56%、全国48%)、「意見は分かりやすく伝える」(本校48%、全国41%)、「自分ができることは何かを考えて行動する」(本校52%、全国44%)、「周りの人と力を合わせる」(本校54%、全国45%)である。

b 自己理解・自己管理能力

指標は第2学年前半まで低下し続けたが、その後は上昇に転じた。第2学年後半で本校が全国を上回ったものの、最終的には全国をわずかに下回った。第3学年最終調査で特に肯定的回答の割合が全国よりも低かった項目は「自分にはよいところがある」(本校64%、全国73%)、「ほかの人から指示される前に取り組む」(本校75%、全国84%)である。一方、「苦手なことにもがんばって取り組む」の項目では肯定的回答の割合が全国よりも高かった(本校90%、全国85%)。

c 課題対応能力

指標は第1学年前半では全国をわずかに上回っていたが、第1学年後半で低下し、全国を下回った。その後、指標は上昇に転じたものの、全国との差が埋まることはなかった。第3学年最終調査で特に肯定的回答の割合が全国よりも低かった項目は「何か問題がおきたときには、どのようにしたらその問題が解決できるかを考える」(本校78%、全国90%)、「進め方や考え方がまちがっていないか、ふり返って考える」(本校67%、全国78%)である。一方、「何か問題がおきたときには、次に同じようなことがおきないように工夫をする」、「計画を立てて取り組む」の項目では全国との差はなかった。

d キャリアプランニング能力

指標は第1学年後半で低下したが、その後は上昇に転じた。第1学年前半から本校が全国を下回っており、第2学年後半で全国に肉薄したものの、最終的には全国を下回った。第3学年最終調査では、「仕事をするこの意味について自分なりの考えを持っている」などの多くの項目で肯定的回答の割合が全国と同等、あるいは上回っていた。しかし、「勉強をするこの意味について自分なりの考えを持っている」の項目で肯定的割合が極めて低かった(本校58%、全国78%)。

e その他

・生活の充実度

第3学年最終調査では、学校生活や学校での友人関係には概ね満足していることが明らかになった。また、第2学年後半調査では低かった自分の将来に対する期待が大きく高まった（第2学年後半59%、第3学年最終81%）。

・意欲・態度

第3学年最終調査では、授業、学校行事及び課外活動に対する積極性については全国との大きな差はない。一方、家庭学習に対する積極性は著しく低迷している（本校33%、全国66%）。

・学ぶことについての意識・意味づけ

第3学年最終調査では、第2学年後半調査と比較して「これからもっとたくさんのお話を学びたい」と「学校での勉強は普段の生活を送るうえで役に立つ」の項目で肯定的回答の割合が上昇した。一方、「学校での勉強は将来の仕事の可能性を広げてくれる」の項目では肯定的回答の割合が低下した（第2学年後半86%、第3学年最終78%）。

・職業観・勤労観

第3学年最終調査では、第2学年後半調査と比較して「自分の能力をいかせる仕事がしたい」と「人の役に立つ仕事がしたい」の項目で肯定的回答の割合が上昇し、全国との差はほぼなくなった。

(イ) 心理測定尺度（情報活用の実践力尺度）

「情報活用の実践力尺度」とは高比良美詠子（中部大学人文学部教授）らが開発した「心理測定尺度」の一種である。生徒のキャリア発達のうち情報活用能力を測るためにこの調査を実施した。

全体の総得点については男女とも全国（平成13年高校生）を上回り、この3年間で最高点であった（男子217.95、女子226.50）。男子は「判断力」「表現力」「創造力」「発信・伝達力」の項目で全国を上回った。女子はすべての項目で全国を上回った。「ジオパーク1・2・3」の様々な活動や他教科でも導入が進められているグループワークやペアワークを通して、生徒は情報活用能力を向上させていったと考えられる。一方、男女とも「処理力」では第1学年後半調査の得点を下回っている。女子は「表現力」で第2学年後半調査をわずかに下回った。

イ 教員・学校運営への効果

本校教員を対象にアンケートを実施し、研究開発学校の取組を通しての自身の変容について問うた。キャリア教育に対する理解の深まりについては約7割、地域と連携した教育に対する理解の深まりについては約8割、生徒が主体となる学習に対する理解の深まりについては約7割の教員が肯定的回答であった。これは当該学年団の教員や「ジオパーク3」の担当教員を中心に、教員としての資質の向上において効果があったことを示すものである。他の学年団の教員については、研究発表会等を通して研究開発の成果を広く共有することにより、その資質の向上に寄与した。

学校運営への効果については、本校は本年度の重点目標の一つに「地域と連携した学校づくり」を掲げているが、「ジオパーク3」の「研究活動・地域貢献活動」はこの点でも非常に効果的であった。

ウ 保護者・地域等への効果

保護者を対象としたアンケートについては、回収方法を工夫したこともあり、回収率は65%と過去最高であった（平成26年度52%、平成27年度42%）。回収率を

高めたことで平成26年度入学生の保護者の意識を概ね把握することができた。本校の取組、キャリア教育、地域理解学習への興味については、肯定的回答の割合が約7割であった。これは、前年度までと比較するとやや低いが、むしろ実態を表したものであるといえる。しかし、本校の取組が生徒の将来にもたらす効果、郷土の伝統や文化に対する理解・貢献、多様な他者との協力、積極的・主体的な課題解決、将来設計に基づく学習や活動の意義の理解については、肯定的回答の割合が前年度までと同等、あるいは上回っていた。保護者の多くが生徒の成長を実感し、本校の取組の意義を理解していることを示す結果となった。

研究発表会の来場者（地域住民、保護者、他校の教員等）を対象としたアンケートの結果からは、本校の取組が十分に理解されていることが示唆された。特に「本校の地域に貢献する活動を通じて、将来の地域を支える人材を育成する取組が将来生徒・地域の役に立つと思うか」との問いに対しては、全ての回答者が肯定的に回答しており、「研究活動・地域貢献活動」に対して大きな期待が寄せられていることが明らかとなった。

（２）実施上の問題点と今後の課題

ア 地域に根差した新しいキャリア教育の推進

本校における4年間の研究開発の成果に基づいて、地域に根差した新しいキャリア教育を実施することができるよう計画を立案した。平成28年度入学生から「総合的な学習の時間」（各学年1単位）の一部を用いて実施する。（現在、平成27年度入学生を対象に試行中である。）概要は以下の通りである。また、この新しいキャリア教育の長期的実施を可能にするための校内・校外の体制の整備も必要である。

地域理解学習…第1学年1、2学期

フィールドワーク（1日×2回）・講演会（1時間×2回）

グループディスカッション（1時間×2回）

イワッツ・ミッション…第1学年3学期～第2学年

グループでの地域課題解決学習（2時間×5回）・成果発表会（3時間）

※「ジオパーク3」の「研究活動・地域貢献活動」の後継となる活動

インターンシップ…第2学年1学期

事前指導・実習（4日間）・事後指導・報告会（2時間）

イ 研究開発の成果の普及

キャリア教育や地域連携に意欲的に取り組んでいる全国の学校との連携・交流を深めていくとともに、本校の研究開発の成果を広く普及していく必要がある。

ウ 平成26年度入学生の卒業後の追跡調査

「ジオパーク1・2・3」を履修した平成26年度入学生が過疎化と高齢化が進む地域の振興に寄与する人材となり得ているのかを把握するために、卒業後の追跡調査を実施し、本校の研究開発の成果を改めて検証する必要がある。

エ 保護者・地域等への周知

現在、本校のキャリア教育や地域連携に関わる取組をホームページ等で紹介しているが、それだけで保護者や地域等への発信が十分であるとは言えない。今後の「イワッツ・ミッション」の活動への理解・協力を得るため、周知方法等について一層の工夫が必要である。

学校等の概要

1 学校名、校長名

トットリケンリツツイフ ミ コウトウガッコウ
鳥取県立岩美高等学校 校長 中島 靖雄

2 所在地、電話番号、FAX番号

〒681-0003 鳥取県岩美郡岩美町浦富708番地2

電話番号 (0857) 72-0474

FAX番号 (0857) 72-3445

3 学年・課程・学科別幼児・児童・生徒数、学級数

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	普通科	83	3	84	3	63	3	—	—	230	9
計		83	3	84	3	63	3	—	—	230	9

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1	0	2	1	0	25	0	1	0	0	10
ALT	スクールカウンセラー	事務職員	司書	計						
1	1	6	1	49						